

職場交換研修報告書



野月 孝平
NPO 法人 ひなた

1. 研修場所

有限会社 Colors

2. 研修目的

職場交換を通して他事業所の支援方法を見学することにより、今後の自身の支援を見直し、今まで以上に様々なアプローチから支援出来る視点を会得する。

3. 研修内容

- ① 筋ジストロフィーの方の入浴支援及びコミュニケーション支援
- ② 自閉症スペクトラムの方の外出支援（運動支援と運動浴支援）
- ③ 自閉症スペクトラムの方の外出支援（入浴支援）

4. 研修の感想

- ① 筋ジストロフィーの方の入浴支援
洗体介助の際、利用者の方を仰臥位にした後、バスタオルをかけた上からお湯をかけ、体温が下がる事を防ぐようにしていたのを見て、今後肢体不自由者の方への支援へ取り入れたいと思った。また、入浴用の枕を使う事で背面に隙間が出来て、シャワーヘッドを背中に入れて温められるので、利用者さんが洗体中に体温が下がる事なくリラックスして入浴が出来ていると感じた。今後の支援に取り入れたいと考えている。

- ② 自閉症スペクトラムの方の外出支援

（運動支援と運動浴支援）

運動支援（体育館のランニングスペースでの歩行）の際に周回数を伝える際、輪ゴムを周回分利用者の方に持っていただき、一周毎に輪ゴムをヘルパーに一つずつ渡して見通しを持ってもらうという支援を行っていた。利用者の方の特性次第かとは思いますが、一周毎にポイントをつけるのではなく、「無くなったら終了」という提示の仕方の方が理解できる方が多いのかな、と感じた。また、輪ゴムで有ればヘルパーも利用者の方も手が空き、運動支援がしやすいと感じたので、今後同様の支援があった場合は取り入れていきたいと考えている。

また、提示する予定表の作成者を敢えて第三者にして提示をしている（作成者がその日の担当ヘルパーや母だと本人に甘えが入り、予定を自身で崩してしまい不穏になることが有るとのことで、上記行動を防ぐ為。）という話を、支援の際に聞いた。同じようなケースの方で弊事業所を利用されている方にもいらっしゃるので、今後の提示の仕方の参考になればと感じた。

- ③ 自閉症スペクトラムの方の外出支援（入浴支援）

口頭での予定提示だったが、本人の特性を考え、全て一語文で切って伝えていた事が印象的だった。自身も気を付けてはいるが、無意識に二語や三語文になってしまう事も多い。日頃から、どうすれば相手の方に伝わり穏やかに過ごせるかという事を意識しているからこそ、出来るコミュニケーション支援だと感じた。

また、肌が弱いという本人の特性

上、シャワーを直接かけるのではなく、桶の水をかけながらヘルパーの手で流している事にとっても感銘を受けた。細かい部分では有るが、利用者の方がどうすれば余暇を穏やかに過ごせるかという事を常に考えているからこそその支援だと思い、今後の支援でも日頃から一層気を付けたいと考えている。